

論議を策活化

魅力を再確認

観光客増など
方策考える

北方学園児童生徒と大人が一緒に

延岡

北方がなくならないために、私たちは何をすればよいか。そんな危機感のあるテーマで、延岡市北方町の小中一貫校「北方学園」の児童生徒と地域の大人と一緒に議論する「北方活性化フォーラム」が18日、同校であった。地域の魅力を再確認しつつ、観光客や移住者を増やすための方策を考えた。

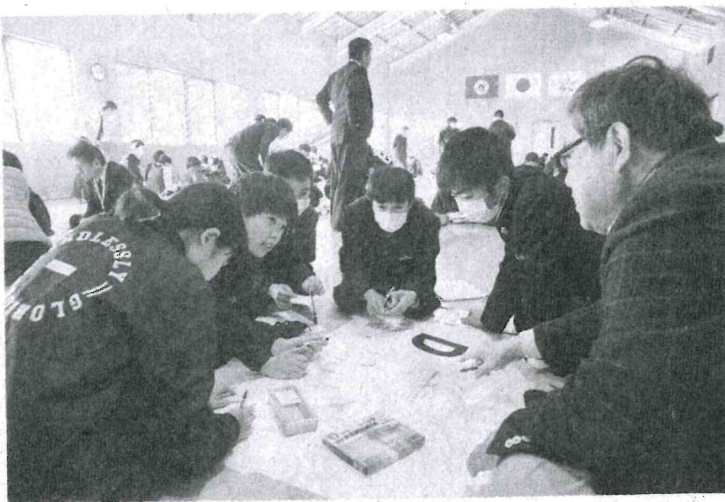
フォーラムには小学6年〜中学2年の約65人と、市役所北方総合支所やPTA、学校評議員ら大人26人が参加。グループディスカッションでは12グループに分かれ、模造紙に北方の魅力などを書き出しながら、活性化策を議論した。

他地域と同様に人口減少や少子高齢化が進む北方町。模造紙に書き出された言葉には「自然」や「PRする」「子どもの遊び場を増やす」などが並んだ。代表してまとめを発表した4グループからは「イベントを通して特産品をPRする」「宿泊体験や観光ツアーで北方に

来る機会をつくる」などの提案が出された。

は「ここでの議論はまだ入り口。実現するために何を必要があるのかを考えないといけない」とアドバイス。実現する

のは大人の役割で、皆さんは柔らかい頭で発想して。今の時代は世界を見据えて考えることが近道かもしれないと話した。2年の緒方芽生さんは「地域の大人のひとと一緒に考えることができてよかった。大人になって出て行くかもしれないが、いつかは北方に貢献できるようにになりたい」と話した。



北方町の活性化を議論する北方学園の児童生徒と大人たち(18日、延岡市北方町の北方学園)